

◆ 担い手育成事業

活力ある漁村づくりモデル育成事業への取り組み

八重山農林水産振興センター 牧野清人

1. 目的

竹富町小浜島細崎の漁村集落では20名足らずの漁業者が漁家経営を行っているが、近年の燃油費高騰や魚価の低迷に加え、離島であるがゆえの輸送コストや手数料の負担による低所得や後継者不足に悩まされている。また、島内唯一の冷蔵冷凍施設も老朽化しており、水産物の保存や衛生管理において問題があり、年間14万人以上の観光客に対しても水産物販売の機会を逃している。こうしたことを解消するため、平成21年度より地元漁業者を中心に「細崎ま〜る新鮮隊」を結成し、国庫補助事業の「活力ある漁村づくりモデル育成事業：年間補助300万円程度」を活用しながら、地元漁業と観光業のコラボレーションや地元海産物を用いた加工品づくりなど、漁村の活性化に向け取り組んでいる。同事業は3年間補助を受けることができ、23年度が最終年度となる。八重山地区の普及指導員としては、これに関して既存の水産技術指導や情報提供を行う等、同事業への支援を行うこととした。

2. 材料及び方法

同事業の実施に関して、年に3回程度開催される地域戦略会議に出席し、活動計画や今後の方針等について話し合いを行った。また、県外から参加される体験漁業モニターツアーや石垣市、小浜島内でのイベント参加に立会い、様々な助言を行った。さらに、水産海洋研究センター石垣支所等の協力によりヒメジャコ養殖について視察させていただいた。

3. 結果及び考察

1) 地元での協議会

6月10日、15日、12月8日、22日に細崎公民館において、細崎漁港冷蔵冷凍加工施設整備ならびにこれまで行ってきたソフト事業の継続に関し、24年度に新規での補助事業についての検討会を行った。細崎ま〜る新鮮隊としてはこれまでの事業により今後の活動内容がほぼ絞られてきたが、冷蔵冷凍施設の老朽化や加工事業等を行うための拠点が無いことから今後の活動に支障をきたすことが懸念され、これを解消するためにも補助事業を受けたいという希望があり、平成24年度産地水産業強化支援事業への申請を行うこととした。同事業の申請については竹富町が中心となっており、ホシザキ(株)や(株)沖縄土木設計コンサルタントに協力していただき、施設の規模や用途などについて検討している。

24年2月27日に、「活力ある漁村づくりモデル育成事業」の報告会を行った。同報告会には事業推進の為にコンサルティングをしていただいているランドブレイン(株)の中村良三氏の他、東京海洋大学の妻小波教授や岡山大学大学院の藤井和佐准教授等、4名の学識経験者もオブザーバーとして出席頂いた。その中で、体験漁業を主としたブルーツーリズムや魚垣などは小浜の売りになる。これを観光業に結びつけるための体制作りが重要である。また、島内での水産物販売において、小口の発注に対応する窓口の一本化、情報発信のためのホームページ作りなどの活動について推進すべきとの意見が出された。

2) 体験漁業

10月21日から22日にかけて、細崎ま〜る新鮮隊の協力により、定置網体験、刺網体験に同行させていただいた。また、3月13日にも体験希望者2名とNPO法人自然体験学校の職員に同行し、

定置網体験学習を行った。小型定置網は0.5t程度の小型船で現場まで行き、網の構造を説明し、隊員である漁業者の水揚げ作業を見学する形であったが、実際に体験者に潜水作業をさせなくても十分作業を見ることが出来、勉強になると思われた。刺網体験では10月22日の夜間に漁場に到着次第網をしかけ、翌朝網を回収しながらヒブダイやイソフエフキ、アイゴ、イスズミ等の魚を水揚げした。網から魚を外す作業で手を怪我するなど、少々危険が伴うことが考えられるが、もっとも地元の魚に触れることができる体験であると思われ、漁業者が適切に指導を行い、簡単に外せる魚、毒のない魚だけを外させるなど、工夫することにより十分体験漁業として成り立つものと思われた。さらに、この体験学習の中で、八重山漁協と組合員が取り組んでいる資源保護活動や漁業調整規則についても勉強していただくことが望ましいと考えられた。

3) ヒメジャコ人工基盤による養殖試験の視察

細崎ま〜る新鮮隊の比嘉隊長ならびに大城ユミ氏に同行し、水産海洋研究センター石垣支所にて、岸本研究員よりヒメジャコの養殖基盤の現段階での試験について紹介していただいた。また、同基盤を用いたケージ養殖についても説明していただいた。細崎ま〜る新鮮隊では新しい漁業形態として、観光客を対象とした漁業体験学習を事業化することを予定しており、その一環として、ヒメジャコの放流体験や養殖基盤を用いたシャコガイの埋め込み体験をできないか検討している。岸本研究員の話では、現段階で養殖基盤についてはほぼ実用化へ向けた試験研究を行っており、数年後には一般に業者からの販売が可能となる見込みとのことであった。また、陸上よりも水温の安定した海上でのケージ養殖がのぞましいが、恰着するまでの期間は陸上水槽で流水飼育するのがよい、沖出し後は食害防止や手入れのためにケージを定期的に点検する必要があるなどの説明があった。

4) イベントへの参加

5月14日に開催された八重山の産業祭りなら

びに10月30日に開催された小浜島ちゅらさん祭りにおいて、細崎ま〜る新鮮隊として参加した。産業まつりにおいては加工品などの販売はできなかったが、活動内容について写真で紹介した。ちゅらさん祭りではたらし揚げ等の加工品を販売し、全て売切れるなど、盛況であった。



活力ある漁村づくりモデル育成事業報告会



定置網体験漁業



刺網体験漁業



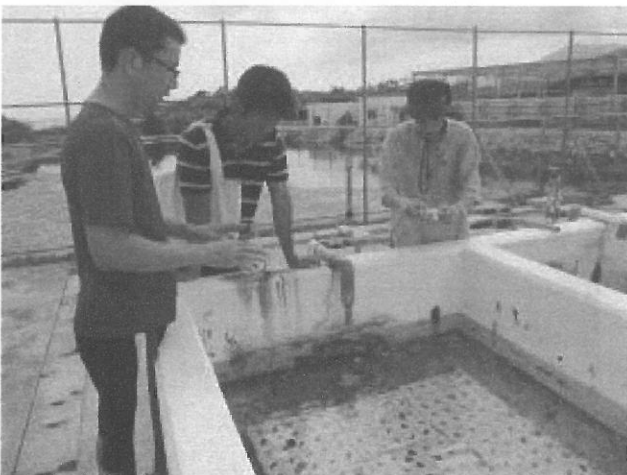
八重山の産業祭りでの活動紹介



刺網体験漁業で水揚げされた魚



小浜島ちゅらさん祭りでの出店の様子



水産海洋研究センター石垣支所岸本主任研究員よりシャコガイ養殖人工基盤について説明をうける細崎ま〜る新鮮隊の2名